四小だより

日野市立日野第四小学校
校長　三浦　寛朗
令和７年３月号

学校 Web ページ
https://www.hino-tky.ed.jp/e-hino4/

周年記念キャラクター
ふじっち

学校標語　「夢中になれる　夢中にさせる　日野四小」

残り少ない日々を大切にする

校長　三浦　寛朗

校庭の梅の花も開花し、木々の芽も膨らみ始めました。日一日と春へ向かって季節が進んでいることを感じます。

いよいよ今年度最後の月、３月です。３月は子供たちにとって、１年間の学習や生活を振り返り、自分の成長を確認する大事な時期です。一人一人が一日一日を大切に、進学や進級へ向けての意欲を高めていけるよう、そして、夢や希望を抱き、一歩一歩前進していこうとする心を育むことができるよう、教職員一同尽力してまいります。

３月は、卒業関連行事がいくつか控えていますが、その中の一つ「６年生を送る会」が３月７日に行われます。１年生は、入学時から６年生に、学習の用意を手伝ってもらったり、一緒に遊んでもらったりなど、たくさんの世話をしてもらってきました。１年生の教室を６年生と１年生が一緒に掃除をするなどもしていました。その感謝の気持ちが表すために、６年生の喜ぶ様子や、表情を思い浮かべながら６年生全員にプレゼントを作ります。また、１年生だけではありません。どの学年も大好きな憧れの６年生の心に自分たちの気持ちが届くように、一生懸命に準備を進めていきます。当日の、あたたかい和やかな交流が楽しみです。

６年生はもうすぐ本校を卒業します。卒業式当日に、一人一人に渡す卒業証書には「小学校の全課程を修了したことを証する」と書かれています。この「全課程を修了した」とは「各教科等の内容を学んだ」ということですが、それだけでは無いと思います。小学校生活の６年間で、子供たちはよいこともいけないことも、たくさんの様々な経験を積んできました。その経験を通して、だんだんと少しずつ自己を確立し、成長してきました。つまり、教科等以外にも、挨拶や返事、相手の立場に立った思いやりのある言動、周りの空気を読む力、友達との絆、凛々しい態度、礼儀作法など、獲得していることや学んでいることが、数えきれないほどあります。卒業式は２時間ほどで終わりますが、その短時間の中に、呼びかけや合唱など、最後の授業が詰まっています。当日は、「全課程を修了した」という言葉に相応しい、６年間の学びの集大成を表現することができるよう、また、日野第四小学校で学べてよかったと、誇りをもって卒業できるよう、指導していきます。

学校標語「夢中になれる　夢中にさせる　日野四小」を掲げてから、２年が経とうとしています。この学校標語は、子供たちに寄り添った教育活動を推進し、一人一人の夢中を応援しようという思いを込めたものです。今年度を振り返ってみると、教員が子供を指導する、支えるだけでなく、子供たち同士で互いを高め合う場面がたくさん見られました。授業の中で友達にアドバイスをする子。そのアドバイスを真摯に受け止め、より自分を向上させようとする子。グループで協力し合い、一つの作品を作り上げる子供たち。子供たち一人一人が自分で努力、みんなで協力しながら、夢中力を育んでいます。

また、保護者の皆様、地域の皆様のご協力、ご協働も子供たちを大きく成長させてくださいました。特にマイプランスクールやマイプラフェスタでの子供たちへの温かい眼差し、優しい声かけは、子供たちの心に勇気や自信を与えてくれました。これからも、四小の子供たち全員がより一層、すくすくと育ち、夢中になって前に進んでいけるように、皆様でご協同、ご協働いただけましたら幸いです。この一年間、ありがとうございました。